

## 令和5年度第2回北海道立帯広美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和6年(2024年)2月29日(木) 13時30分から15時30分
- 2 会 場 北海道立帯広美術館 講堂
- 3 出席委員 加賀学(会長)、笹島香織、今木由香、松岡準志、野祥子(オンライン)、中村博明、若林洋  
計7名(欠席 堂山貴也、水口誠、持田誠、後藤眞美子、伊藤美也子) ※敬称略
- 4 事務局 野崎弘幸(館長)、友田浩貴(副館長)、齊藤千鶴子(学芸課長)、鎌田大遙(主事)
- 5 傍聴者 なし

### 6 議 事

館長挨拶、展覧会鑑賞の後、会長の進行により議事に入る。

- (1) 令和5年度事業の実施状況について
- (2) 令和5年度美術館評価(暫定版)について
- (3) 令和6年度事業の運営計画について
- (4) 帯広美術館オンラインアート教室について
- (5) 協議・意見交換

### 7 協議・意見交換議事録

- (1) 令和5年度事業の実施状況について
- (2) 令和5年度美術館評価(暫定版)について
  - (1) 及び(2)について、事務局より説明及び委員からの質問に対し、事務局から回答

委 員：評価調書中の「E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上」の説明に関わって、私自身が、月一で、釧路市にイベント出店していることがあるので、美術館を案内するパンフレットなどの広告を委ねてもらえば、そこに置くことは可能なので、お声かけいただきたい。

事 務 局：当館では毎年、「ごあんない」という当館の概要と年間の展覧会の計画を掲載したパンフレットを作成している。ただいまの御提案は大変ありがたく、是非、ご相談させていただきたい。

委 員：学校教育の連携におけるインターンシップの内容について、受付や館内の仕事との説明があったが、館内の仕事とは例えばどのような内容だったのか、もう少し詳しく教えて欲しい。また、教員研修プログラムの参加者1名は、学校の先生という理解でよろしければ、小中高のどの学校なのか教えて欲しい。

事 務 局：教育研修プログラムについて、教員の場合、教育公務員特例法に基づき、夏季、冬季など

の長期休業期間中に行う自主研修があり、その一環として、当館でプログラムを組んで、実施している。今回の参加者は高校の教員で、時期的なこともあったのか、1名という結果となった。インターンシップについては、受付業務や監視業務を主に行っていたというほか、入場料収入などお金の流れと言った事務的な部分も体験させている。

委員：美術館評価の説明を聞いて、今年度、帯広美術館で色々な成果を出されていると感じたが、広報が、もっと上手くできるともう少しいい結果が出せたのではないかと率直に感じた。フェイスブックの更新で技術的な問題が発生したというのは、具体的にはどのようなことか。

事務局：問題なく投稿ができたり、どうしてもエラーが発生し対処方も調べても、うまく投稿出来ない時期があった。その後はある程度解消されたが、道のセキュリティーとの兼ね合いなのか、原因が確定できていない。今後は、そういった事態に対応するためにも、フェイスブック以外に、Xなど複数のSNSの活用も検討していきたい。

委員：今はスマホ時代なので、気になったことをスマホで検索したときにどれだけビビッドにヒットするかということと、最近、私どもでSNSの分析をしていると、わざわざ検索するというより受け身になっていて、流れてくる色々な情報から、気になったものをクリックするという感じになっているので、調べてもらうのではなくて、こちらから見てくださいという発信が大切なのではないかと。また、タイミングがあり、何かを放送したタイミングで、SNSに出すとヒット率が高くなる。その様なことを考えると、先ほど事務局から話があったXなどで手短かにタイミングを合わせて発信していくと、いくつも流れてくるメッセージの中で、関心のある方が立ち止まってURLをクリックし、フェイスブックやホームページに飛ぶことで、アクセスが増えるのではないと思うので、是非、SNSの使い方をもう少し検討されたい。場合によっては、使い方をアドバイスしてくれるコンサルティング事業を行っているところもあるので、技術的なことも含めて、そういうところに相談すると、より広く、美術館の取組が知られることになると思う。

事務局：広報活動はとても大切なものだとして認識しており、いまお話しありました様なことを活用して、私たちも勉強していきたいし、委員からも御協力のお申し出をいただきましたが、当館に関わることは、ほとんどがオールフリーなので、委員の皆様も当館に来られたときにどんどんSNS等で拡散していただけたらという、お願いをしたい。

また、評価については、あくまでも暫定版ということで、利用者のアンケートの結果などを基に作成しているが、この協議会の委員の意見も踏まえるということもありますので、この機会に評価に関わって御議論をいただきたい。

(3) 令和6年度事業の運営計画について

(4) 帯広美術館オンラインアート教室について

事務局より説明、委員から意見なし

(5) 協議・意見交換

委員：前回の協議会で館長に、こちらが活用しているInstagram広告に帯広美術館を投稿していいか了承を得たが、それを報告したくて印刷してきたので、お配りする。私が連携している方と、十勝管内の観光スポットを投稿しているもので、雪が降る前の帯広美術館

を探索し、投稿したものの。フォロワー数が62と少し低いが、費用をかけずに純粋に取れているもの。また、帯広市のキャンペーンか何かで、#（ハッシュタグ）とユーザーリンクを固定したものを付けると、帯広市が抽出してホームページのトップページで紹介するというものに取り上げられたこともあるということ報告したい。

委員：先ほどもお話ししたが、広報について、引き続き私どもが協力できることは、協力していきたい、広く、多くの方に知っていただいて、足を運んでいただけるのが大事かと思っている。また、ここの立地はとてもいい立地ではないかと思う。近くに百年記念館や児童会館がある緑ヶ丘公園、この辺が一体となって氷まつりなどの協力されている取組をより充実していただけると、美術館に行ってみようという市民の皆様も増えていくと期待しているので、よろしくお願ひしたい。

事務局：緑ヶ丘公園には、動物園、美術館、児童会館、百年記念館、花と緑のセンターの5施設の連絡協議会が連携して、定期的に色々と情報交換しており、いまお話しがあったことを参考にして、広く広報活動をしていきたい。また、委員のお話しがあった#（ハッシュタグ）帯美で色々考えていきたい。

委員：私は、釧路市の男女共同参画審議会の委員席をもらっているが、釧路市に市民協働推進課が運営する、男女平等参画センターというものがあり、そこで社会教育の事業を行っているはずなので、オンラインアート教室というものが帯広美術館主催であるということを持ち込むことは可能である。お役にたてれば、お声かけいただきたい。

ちなみに釧路市男女平等参画センターの運営は釧路市女性団体連絡協議会なので、伊藤委員と二人でいってもいいかなと思っている。

事務局：私どもは、オンラインアート教室をどんどん広めていきたいということはあるが、釧路市には、釧路市立美術館と、道立の釧路芸術館もあるので、上手く関係を保ちながらやっていきたい。

委員：休館の件について、オンラインアート教室などを実施するという事になっているが、それだけは問題なく行われるのか。これを見る限り、全面的に展示物は見られなくなるが、休館中に全く何もしないということになるのか。

事務局：4ヶ月間の臨時休館中は展覧会を実施しない、お客様の安全確保という面からも入れない状況だが、オンラインアート教室については、当館からオンラインで発信するものなので、人への安全は確保できるということ、また、期間中展示室には、作品を展示せず、オンラインアート教室を相手の要望に応じて実施する。その中で、当館で所蔵している作品を見ながらやりたいという要望があれば、職員が、常設展用の小さい方の展示室に一時的に作品を並べて、そこから配信するというイメージで考えている。

委員：全く美術館の機能が途切れてしまうと寂しい。見たい人でもそういう情報を知らない方が沢山いる。半年もの間その様な情報がないと足が遠のいてしまうので、その辺の広報も是非、徹底して取り組んでいただきたい。

事務局：臨時休館に関連する部分をプレスリリースするほか、市の広報紙やメディア媒体を通じて、改めて、道民の皆様への周知を考えている。

委員：私は、しらかばの会という、この美術館のボランティアをしている。帯広美術館には、しらかばの会のボランティアが二百数名おり、各部門で積極的に協力している。ティーラウ

ンジとミュージアムショップという部門があり、そこは収益につながるの、是非、美術館で、広報・宣伝を大いにしていただき、私たちの収益が少しでも上がるように御協力を御願ひしたい。

事務局：しらかばの会の主だつて見える場所としては、ショップとティーラウンジがあるが、それ以外にも色々活動している。参考までに皆様のお手元にあるコーヒーは、しらかばの会のティーラウンジから運んでいただいたもの。その様なこともあり、来られたときには是非、ご利用いただきたい。

当館としても、色々な広報の際、しらかばの会について、宣伝させていただいているので、ご理解いただきたい。

委員：広報に関する感想だが、自分の特に歴史などに関する文化系の博物館の研究の一環で、今、博物館はまちづくりや観光にも理解を示しましょうという動きが多くなってきていることから、色々な社会教育機関が今までと違う視点で、広報していくということに関して、最近、色々な施設を見て回っているが、有名どころの温泉宿のロビーや施設などで、大体の観光関連に混じって、必ず足寄の化石博物館のパンフレットとこの美術館の特別展のチラシが置いてある。道の駅にも結構置いてあり、至る所で、美術館のチラシを見ることが多い。私としては美術館だけで無く、私が関係する歴史系の郷土資料の博物館のパンフレットも置けばいいと思うが、そういう面では、美術館ではSNSの方はこれからという部分もありながら、アナログ的なものは充実していると見て取れるので、始めたばかりだが、もう少し足を伸ばして色々な施設、管内のどんなどころで広報できているのかなということも念頭に置きながら調査してみたいと思っている。

事務局：アナログでの広報について、当館ではポスター、チラシを官公庁、学校のほかホテル、商店、タクシー業界など、様々なところに置いていただいている。この美術館が建つ前に誘致期成会という団体があり、今は振興会と名前を変えているが、そのメンバーとなる方々に協力をいただきながら、そこまで広げられたと認識している。ただ、30数年前のデータを使っているの、宛先が不在の場合もあるので、改めてリストアップしながら行っている。

委員：初めて、オンラインで参加させていただいた。羅臼から帯広までは4、5時間かかるので、遠いと感じていたが、本日オンラインで参加して、結構、内容が分かるし、道立の美術館でこんなにオンラインの事業を実施しているとは思わなかったの、私も婦人団体の会に参加しているので、何かの折に、帯広美術館に協力いただき、開催できればいいと考えているので、そのときはよろしく御願ひしたい。

事務局：まさに委員が言われたとおり、遠距離だからこそ、どこにいてもできるというのが、オンラインアート教室だと考えている。これは、学校の「授業」ではなく、「事業」なので、今のお話しにあったような様々な団体に活用していただきたいと考えている。私どもも幅広く広報していきたいと考えており、よろしく御願ひしたい。

委員：私たち、どうしても美術に触れ合うことがないので、よろしく御願ひしたい。

事務局：本日オンラインで参加していただいて、お気づきの点があれば教えていただきたい。

委員：会話が時々途切れて聞きづらい点があったが、大体想像でわかったの、この次は、もう少し聞きやすいと助かると思った。

- 事務局：初めてのオンライン開催で不慣れな点もあったかと思うが、今後、よりよい状況で開催できるよう努めていくので、今後ともよろしく御願いたい。
- 委員：情報提供や広報の部分については、色々と説明があったが、公聴という部分で、例えば来館者からの意見を聞くことや、アンケートを取るということもされていると思うが、どのように美術館の運営や評価に反映されているのか伺いたい。
- 事務局：各展覧会そのものや関連事業などについて、それぞれ実施可能なものはアンケート調査を行っている。会期中は自由に記入し、投函していただくほか、事業の際には、筆記具を添えて配付し、記入していただいている。回答者の属性や参加しての満足度のほか、気づいた点などを自由に記入していただく内容。それを集計し、美術館評価に活用しているほか、自由記載でいただいた御意見については、その後の展覧会や関連事業の実施方法や内容に反映させるよう、適宜、改善の参考にさせていただいている。
- 委員：関連するが、いただいた意見に対して、美術館側でどのような対応をとったかということについては、公開しているか。
- 事務局：公開まではしていない。
- 委員：あくまでも次の展覧会や施設の運営等に活かしていくということか。
- 事務局：そのとおりです。
- 委員：各委員からいただいた御意見を今後の美術館の運営に活かしていただくとともに、特に新年度に休館が相当期間あるので、それを逆手に取って、オンラインアート教室の普及を一層進めていただくことで、帯広美術館の存在意義も高まっていくと考えるので、よろしく御願いたい。